

むさし国分寺訪問看護ステーション

富永久美恵

代表



042-332-7724

musakokuhoukan.com

東京都国分寺市西恋ヶ窪
2-25-1-101

ビジョン

当ステーションがある武蔵野台地は、小動物が木の
実を運んで森が広がっていったそうです。私達は、
その小動物たちのように、温もりあるケアを皆様に
大切にお届けします。

注目の在宅医療機関へのインタビュー取材「PICK UP！在宅医療機関」の第17
回目は東京都国分寺市にて「むさし国分寺訪問看護ステーション」を運営され
ている看護師富永久美恵代表です。これまでの歩み、これからの訪問看護に向
ける思いを熱く語っていただきました。（2025年3月取材）

医療事務から看護師の道へ

医療に進まれた経緯を教えてください。

もともと人を助けることが好きだったので、医療の道に進みたい
という気持ちはありました。両親は医療関係ではなかったの
ですが、福岡の母の実家の近くに医大生のお兄さんがいて、そ
の影響も大きかったと思います。「かっこいいなあ」と憧れて
いました。

大学受験に失敗し、資格も持っていなかったので、医療事務と
して雇ってもらえる病院を紹介してもらったのがきっかけで
す。福岡の久留米市にある中規模病院の古賀病院に勤めまし
た。でも、一年も経たないうちに「私には向いていない」と悟
りました。書類と向き合う仕事よりも、人と接する仕事がした
いという気持ちが強かったんです。

そこで、病院には看護学生さんと呼ばれていた働きながら看護
学校に通う人がいて、私もそういう人たちを横目にしながら

「やっぱり人と接したい」という思いが募りました。予備校に通って国立の看護学部を目指していたの
ですが、院長先生に見つかって「うちで働きながら看護学校に行きなさい」と声をかけていただいたん
です。そこで、看護助手をしながら准看護師の学校に入る勉強をして、医療事務として働き始めた1年後
には准看護師の学校に通っていました。

看護師になり始めのころはどんな想いを持っていましたか？

准看護師として古賀病院に勤務しながら正看護師の資格を取る
ために学校にも通いたいと思っていました。でも、夜勤と学業
の両立は私には難しいと思い、別のクリニックに移り、正看護
師の資格を3年間で取りました。そして、看護師になったら
ICU（集中治療室）かER（救急救命室）で働きたいという思い
がありました。できる看護師になりたいという気持ちがあった
からです。聖マリア病院に勤めることになり、まずは解剖生理



高校生のころ



聖マリア病院にて

からだと思いOPE室勤務を希望したのですが、OPE室は人気だったのでICU勤務になりました。聖マリア病院を選んだのは、私が生まれた病院だったからです。ご縁を感じました。

ICUは想像以上に過酷な現場でした。毎日が激務で、急変や生死に関わる場面に何度も遭遇しました。先輩も厳しく、精神的にも体力的にも限界を感じることもありました。そんな中で、研修医だった夫と出会い、結婚、妊娠しました。ICUでの仕事は続けるのが難しいと思い、上司に相談したところ、透析の部署を紹介していただきました。

聖マリア病院は院内保育が充実していて、子育てしながら働きやすい環境だったので、産後3ヶ月で復帰しました。しかし、その後すぐに夫の仕事の都合で東京に行くことになり、退職しました。しばらくは子育てに専念していましたが、下の子が幼稚園に入る頃に「もう我慢できない！また仕事がしたい！」という気持ちが強くなり、復職することにしました。

様々な経験を糧に独立への礎を築く

復職後はまずは派遣看護師として再スタートされたのですね。

仕事に復帰しようと思った時にはブランクが5年あり、いきなりICUのようなハードな現場に戻るのには不安でした。そこで、派遣看護師から始めました。派遣看護師は、比較的負担の少ない仕事が多いので、復帰にはちょうどいいと思いました。ただ、派遣ではデイサービスや訪問入浴などの仕事が多かったですね。私は通所型デイサービスの仕事を選びました。とても面白かったです。ICUとは全く違う、穏やかな時間が流れていて、利用者の方々とゆっくり話すことができました。

派遣看護師として3年ほど働いた後、キャリアアップを目指して転職エージェントに相談したところ、訪問看護の仕事を紹介していただきました。訪問看護師の仕事は知っていましたが、看護実習の時に体験して、当時は魅力を全く感じませんでした。しかし、実際に働いてみると、利用者さんの生活に寄り添う仕事に魅力を感じました。

訪問看護ステーションでの仕事はいかがでしたか？

紹介されたのは三鷹市で中核を担う「野村訪問看護ステーション」でした。そこでの仕事は想像以上に刺激的でした。スタッフの知識や技術も非常に高く、まるで学生に戻ったかのように、毎日が勉強でした。例えば、アセスメントの研修では、自分の考えをレポートにまとめて提出し、赤ペンでびっしりと添削されるようなこともありました。まるで赤ペン先生ですね（笑）。でも、そのおかげで、訪問看護師としての基礎をしっかりと身につけることができました。

しかし、野村訪問看護ステーションは、40代から50代の経験豊富なスタッフが多く、次第に私のようなブランク明けの看護師がキャリアアップしていくのは難しいと感じはじめ、3年が経過したころ、転職することにしました。

管理者候補として葬儀社が運営する訪問看護ステーションを紹介していただきました。入職直前にステーションが閉鎖してしまいましたが、そのまま葬儀社の民間救急で働きました。看護師として患者さんの搬送や、ご遺体の処置などを行いました。やはり訪問看護の仕事がしたいという思いが強く、半年で退職しました。

その後、にじゅうまる訪問看護ステーションに勤め、小児や精神の訪問看護などいろいろな経験する中で・・・



野村訪問看護ステーションにて



続きはQRコードからアクセスしご覧ください → → →